

C. 黄色腫 xanthoma

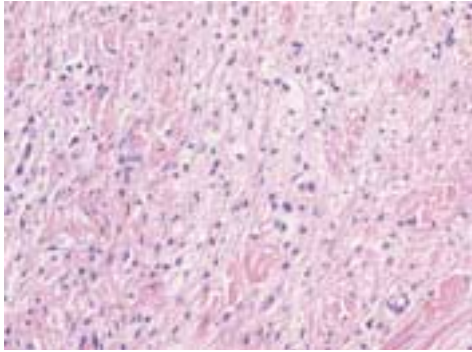


図 17.9 黄色腫 (xanthoma) の病理所見
真皮内に脂肪滴を貪食した泡沫細胞を多数認める。

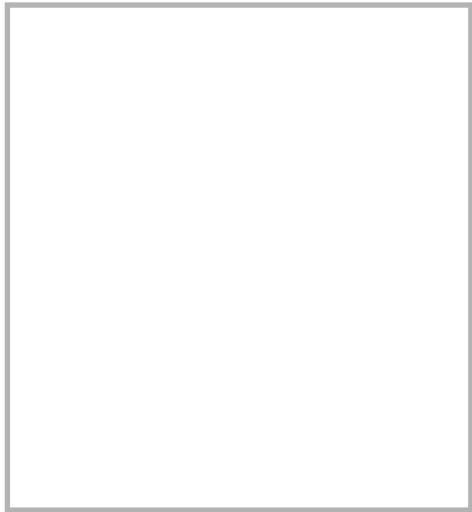


図 17.10 結節性黄色腫 (tuberous xanthoma)
MP 関節および PIP 関節に生じた症例。一部赤みを伴う。



図 17.11 扁平黄色腫 (plane xanthoma)
右上腕の慢性的リンパ浮腫に続発した症例。境界不明瞭な黄色局面を認める。

定義

脂質を含有する泡沫細胞が皮膚および粘膜に集簇した状態で、肉眼的に黄色調を呈する病変である。一般に、黄色腫は全身性のリポ蛋白代謝異常（脂質代謝異常）に伴うが、脂質代謝異常を認めない症例もある。臨床像からいくつかの病型に分けられ、以下で解説する。

病理所見

真皮のとくに血管周囲に脂肪滴を含有した泡沫細胞が集簇した組織像を呈する（図 17.9）。Touton 型巨細胞を認めることもある。

治療

高脂血症の治療が主。発疹型黄色腫は炭水化物の摂取制限によるトリグリセリド値の低下とともに消失することがあるが、結節型は内服などの治療にもなかなか反応しない。

1. 結節性黄色腫 tuberous xanthoma



肘および膝の伸側や手足の関節部に好発する直径 5 mm から数 cm 大の盛り上がりのある赤みを帯びた黄色調の硬い腫瘤を生じる（図 17.10）。高コレステロール血症（Ⅱa, Ⅲ, V 型）に伴う。

2. 腱黄色腫 tendon xanthoma



結節型黄色腫の一種で、アキレス腱や手足膝の腱が腫瘤状、棍棒状になる。高コレステロール血症（Ⅱa 型）に伴う。

3. 扁平黄色腫 plane xanthoma



ほとんど盛り上がらない黄色調の変化である。高リポ蛋白血症を伴うものと伴わないものがある（図 17.11）。

4. 眼瞼黄色腫 xanthelasma palpebrarum



扁平隆起性で上眼瞼の内眼角部に生じる。高コレステロール血症（Ⅱa, Ⅲ型）に伴うことが多いが、約半数例では高リポ蛋白血症を伴わない（図 17.12）。

5. 発疹性黄色腫 eruptive xanthoma ★

直径 5 mm 以下の小型の黄色調丘疹が全身に多発する。高トリグリセリド血症に伴う。

そのほかに結節性発疹性黄色腫や手掌黄色腫，手掌線条黄色腫，角膜輪などの病型もみられる。



図 17.12 眼瞼黄色腫 (xanthelasma palpebrarum)
上下眼瞼の内眼角部に扁平隆起性，軽度浸潤を伴う黄色局面が散在。

D. 電解質 electrolyte

1. 腸性肢端皮膚炎 acrodermatitis enteropathica ★

同義語：亜鉛欠乏症候群 (zinc deficiency syndrome)

Essence

- 亜鉛の欠乏による疾患で，皮膚炎，脱毛，下痢の 3 主徴。
- 常染色体劣性遺伝をとる先天性と経中心静脈栄養や消化管切除などによる後天性に大別。
- 四肢末端，外陰部，開口部（眼囲，鼻孔，口囲，耳孔）といった部位に，紅斑とびらんを形成し，乾癬や脂漏性皮膚炎，皮膚カンジダ症などに類似した病像となる。

症状

皮膚炎は機械的刺激の加わりやすい四肢末端や外陰部，開口部（眼囲，鼻孔，口囲，耳孔）などに好発する（図 17.13）。まず丘疹や小水疱，膿疱を伴う紅斑で初発し，びらん，痂皮を生じる。環状鱗屑を形成し，乾癬や膿痂疹，脂漏性皮膚炎，皮膚カンジダ症と類似した病像を示す。皮膚炎のほか，爪の変形や爪囲炎をきたす。

脱毛はほとんどの症例にみられる。後頭部および側頭部から始まり，全頭毛や眉毛などに及ぶ。そのほかの症状として，下痢や嘔吐を繰り返す。

病因

先天性では常染色体劣性遺伝形式をとり，第 8 染色体上にある ZIP4 遺伝子の変異により発症する。ZIP4 遺伝子の転写産物は亜鉛および鉄の特異的輸送蛋白である。後天性の亜鉛欠乏を起こす原因としては，長期の経中心静脈栄養，消化管切除，重症の下痢や嘔吐などがあげられる。また，抗リウマチ薬のペニシラミン内服により発生することがある。母乳中の亜鉛欠乏により，母乳保育中の乳児に生じることもある。



図 17.13 腸性肢端皮膚炎 (acrodermatitis enteropathica)
外陰部に広範囲の膿痂疹様の紅斑を認める。一部水疱，膿疱も伴っている。